

## 教育プログラムの概要及び採択理由

機関名	北海道大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	バックグラウンド多様化を活かす大学院教育		
主たる研究科・専攻名	法学研究科法学政治学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 尾崎 一郎		

### [教育プログラムの概要]

近年の研究者養成のための文系大学院入学者の顕著な特徴として、第1に、留学生や社会人の比率の著しい高まり、第2に、専門職大学院（法科大学院、公共政策大学院等）修了者における研究者志望者の一定数の存在があげられる。すなわち、博士前期課程・後期課程いずれについても、入学者のバックグラウンドの多様化が見出される。

このような状況を踏まえつつ、本研究科は、第1に、大学院教育の実質化を目指しつつ、《複眼的専門知》を備えた視野の広い研究者養成を基本理念とする抜本的教育内容再編成を実施した（平成17年度）。この改革によって、複式履修制度、外国語・クラシック科目、研究会聴講科目、博士論文事前審査制度導入など、**研究能力養成**と**学位論文執筆**を見据えた体系的教育プログラムを導入し、確実な成果を上げている。第2に「魅力ある大学院イニシアティブ」（平成17～18年度）においては、研究能力と車の両輪をなす「**研究マネジメント力**」の養成を学生主導型で追求し、大きな成果を挙げた。本プログラムは、その上で第3の方策として、学生の多様なバックグラウンドを創造的に活用することを目指した**多方向型教育プログラム**を開発し、本研究科における一連の大学院改革のさらなる推進を期するものである。この改革によって、学生のバックグラウンドの多様化の持つ積極的側面が活用されるとともに、その一層の促進が期待される。

本プログラムにおいては、上記の目的を実現するために、高度な教育研究環境の開発を責務として本研究科に平成12年に付設された「**高等法政教育研究センター**」（以下「**高等センター**」という。）をベースとして、高等センター教員、本プログラムのために採用された特任助教、客員研究員の責任実施体制のもとに、現在の教育プログラムを補完するものとして、以下の**多方向型プログラム科目**を展開する。

- ①「**リサーチ型科目**」 学生のバックグラウンドを活かした多様な研究を促進する科目。
- (a) **能動型エクスターンシップ科目** 社会人型学生や専門資格を有する学生が、そのバックグラウンドを活かした研究を推進するために、研究と一体の実務経験を一定期間積む科目。
  - (b) **フィードバックセミナー** 主として留学生を想定する。学生が進行中の研究を自国の実務家や関連研究者に披瀝して研究交流を行い、多面的な人脈を構築する科目。
  - (c) **セルフ・エデュケーション科目** 学生主導で内外の研究者を招聘して研究会やワークショップ等を開催し、それを通じて研究能力、研究マネジメント力の養成を図る科目。その準備のための勉強会、読書会、講評会等もこの科目に位置づける。

②「**コラボレーション科目**」 多様なバックグラウンドを持つ学生がその特長を活かし、知的背景や研究技法に関して他の学生に対してインストラクションを行う科目。具体的には、社会人学生や有専門職資格学生が他の学生に実務知識を提供する、従来型学生が社会人学生等に史料分析の方法を教える、留学生に日本人学生が論文作成の作法を指導する、留学生が日本人学生に外国学会での報告の仕方を指導する、などが考えられる。

③「**PP (Prominent Persons) セミナー**」 各界の代表的人物（各国議員、大使、弁護士会会長、最高裁判事、経団連会長など）を内外からオムニバスで招聘する。多様なバックグラウンドを持った学生に、それぞれの問題意識に応じた《複眼的専門知》を提供するとともに、社会関係資本の蓄積を目指す科目である。

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

国際的・学際的な《複眼的専門知》をもつ  
法学・政治学の若手研究者、より高度な  
専門職の養成

学生の多様なバックグラウン  
ドを活用したインタラクテ  
ィブな教育科目の提供

研究促進  
社会貢献  
人的資本

社会人コース

博士課程

研究者養成コース

- ◆ 少人数教育と《複眼的専門知》の深化
- ◆ 錬成的コースワーク
- ◆ 論文事前審査制度

多方向型科目

リサーチ型科目

コラボレーション  
科目

PPセミナー

専門資格  
社会経験  
外国知識

修士課程

- ◆ 研究者養成と専修的教育の統合
- ◆ 複式指導方式
- ◆ 履修科目群選択制
- ◆ 少人数教育と《複眼的専門知》の修得

指導・助言  
単位認定

客員  
研究員

助教

高等法政  
センター

留学生

従来型学生

社会人

専門職大学院

<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、留学生、社会人、法科大学院修了生など、多様化する入学者に的確に対応するため、「複眼的専門知を備えた視野の広い研究者養成」を目指し、博士前期・後期課程を通じて、コースワークの充実が図られている点は、高く評価できる。

教育プログラムについては、大学院生の多様なバックグラウンドを創造的に活用することを目指し、多方向型プログラム科目として、社会人学生に対する研究と一体の実務経験を積む能動型インターンシップ科目、留学生を対象とした海外でのフィードバックセミナー、それらの学生のインストラクションを図るコラボレーション科目など、多方向・複眼的教育を行うための魅力的なプログラムが構築されているが、修了後の大学院生の具体的なキャリアパスや、多様な取組を効果的に実施するための体制等については、更なる具体化が望まれる。